一橋大学社会学部連続市民講座 2012

戦争と暴力―社会科学からのアプローチ

一橋大学社会学部は、昨年度にひきつづき本年度も、全8回の連続市民講座を開催します。私たちをとりまく世界は、国際社会のレベルでも、日常生活のレベルでも、戦争や紛争、様々な形をとった暴力に満ち満ちています。そして、この問題を解決するためには、様々な視点からの多様なアプローチが必要なことは言うまでもありません。もちろん、簡単に答えを出せる問題ではありませんが、解決のための糸口を私たちと一緒に考えてみませんか。6回以上出席の受講者の方には、修了証を発行します。昨年度同様、多くの市民の皆様の参加をお待ちしています。

■ 2012 年度　講座一覧（講座の題目は予定であり変更する可能性があります。）

	日　程	担　当　者	タ　イ　ト　ル
1回	4月21日(土)	吉田　裕　教授	なぜ戦争の時代と向きあうのか―アジア・太平洋戦争期を中心に
2回	5月19日(土)	鈴木　直文　講師	スポーツによる社会的包摂―愉しみとしての暴力と都市貧困をめぐって
3回	6月16日(土)	猪飼　周平　准教授	暴力・犯罪と社会的排除
4回	7月21日(土)	児玉谷 史朗　教授	冷戦後アフリカでなぜ紛争が多発したのか
5回	9月15日(土)	大河内 泰樹　准教授	グアンタナモに見る現代の権力―ミシェル・フーコーの権力論から
6回	10月20日(土)	洪　郁如　教授	もんぺ着用―植民地台湾の戦争動員
7回	11月17日(土)	小井土 彰宏　教授	テロとの戦争の名のもとに―9.11事件とアメリカにおける移民規制の厳格化
8回	12月15日(土)	多田　治　准教授	楽園幻想と開発・軍事の比較社会学―ハワイと沖縄を中心に

会場／時間

兼松講堂（一橋大学国立西キャンパス）
時間／13：30～15：00（うち、質疑応答15分を含む。）

参加方法

参加は無料。どなたでも入場できます。
当日、直接会場までお越しください。

問い合わせ先

■ 一橋大学社会学部事務室
TEL：042-580-8212
E-mail：info@soc.hit-u.ac.jp

東京都国立市中2-1

一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

協力／一橋新聞

冷戦の終結後も、私たちの願いに反して、内戦や紛争、「テロとの戦い」という新しいタイプの戦争が相次いでいます。その原因を考えるためには、社会科学の様々の分野からの多様なアプローチが必要です。戦争の原因は、貧困、抑圧、差別などの「構造的暴力」の問題と分かちがたく結びついている点からも、諸分野が協働して立ち向かう必要があるでしょう。同時に敗戦後、60数年を経て、私たちの社会では、戦争の生々しい記憶がうすらいでゆきつつあるだけでなく、かつての戦争や植民地支配の問題に対する歴史的評価が、アジア諸国などとの間に様々な軋轢を生み出している現実があります。こうした、状況を踏まえ、今年度の講座では、戦争と暴力の問題を、様々な角度から、皆さんと一緒に考えてみることにしました。おつきあいいただけると幸いです。

村田　光二
一橋大学社会学部長

講座担当教員

吉田　裕（よしだ　ゆたか）教　授

専門分野は日本近現代史。日本の政一軍関係、日本軍隊史の研究。最近では日本の戦後処理、日本人の戦争観にも関心を持つ。主著に『アジア・太平洋戦争』（岩波書店）、『日本人の戦争観』（岩波書店）、『日本の軍隊』（岩波書店）、『現代歴史学と戦争責任』（岩波書店）など。担当科目は「政治史」「政治過程論」など。

鈴木　直文（すずき　なおふみ）講　師

専門分野は、都市再生論、スポーツと「開発」論。スポーツ・余暇・文化活動を契機として社会的弱者を社会の主流へと接続しようとするプログラムについて、先進国、途上国を問わず、理論と実践の両面から研究している。担当科目は「国際スポーツ論」「地域社会とスポーツ」「スポーツ社会学の基礎」など。

猪飼　周平（いかい　しゅうへい）准教授

専門は社会政策、医療政策。人が暮らしたり、それを支えたりするということはどういうことか。社会政策学は根本的にこの問いに還元される。思えば私の研究 は医療の領域でこの問題を考察することだった。その足跡が『病院の世紀の理論』（有斐閣）。担当科目は「社会政策」など。

児玉谷 史朗（こだまや　しろう）教　授

専門は、アフリカ地域研究、開発学。ザンビアの村を定点観測して、農村社会の変化を追ってきた。他の村人との関係、雨の降り方、世界市場など村人の生活は 多くのものに影響される。大震災で生活の危うさは日本も同じだと痛感した。担当科目は、「国際開発論」、「発展途上国の諸問題」など。

大河内 泰樹（おおこうち　たいじゅ）准教授

専門分野は哲学。特に近現代ドイツ哲学を専攻し、アイデンティティ、ことば、権力、承認といったキーワードのもと現代社会の哲学的課題に取り組んでいる。共著に『生きる意味と生活を問い直す―非暴力を生きる哲学』（青木書店）『大学と哲学』（未來社）。担当科目は「社会哲学」「哲学史」など。

洪　郁如（こう　いくじょ）教　授

専門分野は台湾近現代社会史。従来は政治外交を中心に語られてきた近現代東アジア史を「日常」という視線から捉え直し、個人史・家族史・国史を交錯させた社会史研究に取り組んでいる。主著に『近代台湾女性史―日本の植民統治と「新女性」の誕生』(勁草書房)がある。担当科目は「台湾の歴史と文化」「アジアの社会と文化」「文化生成研究」など。

小井土 彰宏（こいど　あきひろ）教　授

専門分野は国際社会学。国際移民現象と政策、グローバルな産業展開の地域への影響などを分析してきた。近年は、アメリカ合衆国における移民規制の衝撃の実情を様々な地域で実証的に分析し、移民を切り口にブッシュ政権以降のアメリカ国家の構造的変質を追っている。担当科目は「国際社会の課題」など。

多田　治（ただ　おさむ）准教授

専門分野は社会学。観光や楽園イメージと植民地主義・軍事が交差する地点から、ローカルとグローバルの関係を問い続けている。主著に『沖縄イメージを旅する』（中公新書ラクレ）、『沖縄イメージの誕生』（東洋経済新報社）、『社会学理論のエッセンス』（学文社）。担当科目は「社会学理論」など。